

有明海の二枚貝増養殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 皆川, 恵 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008588

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



有明海・八代海は今！

— 有明海の二枚貝増養殖 —

海区水産業研究部長 皆川 恵

有明海にはかつてアサリ、タイラギ、サルボウなどの二枚貝が豊富に生息し、最盛期の1979年には13万トンの漁獲がありましたが、その後急激に減少し、最近では2万トンを下回る状況が続いています。その原因の一つは夏に湾奥部で貧酸素の発生が定常化するなど、二枚貝の生息に大きな影響を与える海底付近の環境が悪化してきていることがあげられます。二枚貝は海水中の植物プランクトンや有機物を濾しとって餌としています。例えば、100 gのアサリは1時間あたりおよそ20リットルの水を濾す能力があります。また、私たちの最近の研究結果から、タイラギはアサリの約2倍の濾過能力があることがわかってきました。このように、二枚貝が元気に育っている海では二枚貝がいることで環境が浄化されているわけです。

ところが現在の有明海ではこれら二枚貝が激減したことにより二枚貝の資源全体が行っていた環境浄化機能も低下し、そのことがさらに環境悪化を助長するなど、二枚貝資源の減少と環

境の悪化が負のスパイラルを形成しています。西海区水産研究所では二枚貝の環境浄化機能を最大限に活用し、同時に二枚貝の漁業生産も回復させるため、タイラギやカキなどの二枚貝の増養殖に関する研究を進めています。有明海にはかつて広範囲にカキ礁が広がっており、環境浄化に一定の役割を担っていたと考えられています。私どもはカキ礁の持つ環境浄化や生物を育む機能など、様々な機能を解明し、スミノエガキやシカメガキなどの有明海特産のカキを活用したカキ礁の造成やその利用に取り組み始めました。今年度は有明海奥部鹿島市地先の干潟域に分布する天然及び人為的に管理されたカキ礁の分布実態把握調査を行いました。その結果、管理されていないカキ礁では、ナルトビエイによる食害で破壊され、漁業生産だけでなく環境浄化機能が低下しているということがわかりました。今後、漁業生産の増大と環境浄化の両面の強化を目指してカキ礁の造成に向けた実証試験を行っていきます。



カキ礁の調査方法

高さ10cm、縦横30cmのステンレス製の方形枠でカキ礁をくり抜き、それをトスロンタンクに収容して実験室に持ち帰り、カキやその他の生物を観察・測定します。



カキ礁の観察

航空機による写真撮影で佐賀県鹿島市沖のカキ礁の分布を把握するとともに、ナルトビエイによる被害状況やカキ幼生の付着状況等の事態を明らかにするための現地調査を実施しています。